

「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅡ期」最終評価について

はじめに

愛知県では、大学等の研究成果をモノづくり産業の技術革新（イノベーション）につなげ、既存産業の高度化や次世代産業を創出するため、付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点として「知の拠点あいち」づくりを進めている。

「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」（以下、「重点研究プロジェクト」という）は、「知の拠点あいち」における中核的な事業として、大学等の研究シーズを活用して県内主要産業が有する課題を解決し、新技術の開発・実用化や新産業の創出を促進する産学行政連携の研究開発プロジェクトであり、公益財団法人科学技術交流財団に委託して実施している。

重点研究プロジェクト（Ⅱ期）は、平成 28 年度から 30 年度までの 3 年間、3 プロジェクト 26 研究テーマの研究開発を推進したが、愛知県では、研究終了にあたり、各研究テーマの研究成果の評価と、製品化・事業化にかかる今後の自立的な取り組みのために、最終評価を実施した。

1 最終評価の目的・概要

（1）目的

重点研究プロジェクト（Ⅱ期）各研究テーマにおける研究成果の評価を行い、製品化・事業化にかかる今後の自立的な取り組みを促進する。

（2）評価対象プロジェクト・研究テーマ

最終評価の対象は、以下の 3 プロジェクト 26 研究テーマである。

・ 次世代ロボット社会形成技術開発プロジェクト（プロジェクトR）

番号	研究テーマ
R1	高齢者が安心快適に生活できるロボティックスマートホーム(RSH)
R2	介護医療コンシェルジュロボットの研究開発
R3	航空エンジン製造自動化システムに関する技術開発
R4	施設園芸作物の収穫作業支援ロボットの研究開発
R5	鳥獣害・災害対応ドローンに関する研究開発
R6	愛知次世代ロボットの産業化・市場創出を推進する要素技術開発
R7	ロボット実用化のためのリスクアセスメント（RA）支援システムの構築
R8	眼球運動を指標としたドライバ状態検知技術の実用化
R9	交通事故低減のための安心安全管理技術の開発

・ 近未来水素エネルギー社会形成技術開発プロジェクト（プロジェクトE）

番号	研究テーマ
E1	燃料電池フォークリフト用充填装置と水素製造触媒装置の開発
E2	高耐久性水素製造用改質触媒の開発
E3	メタン直接分解水素製造システムの開発
E4	アルミ陽極酸化処理過程で発生する副生水素の活用システム構築
E5	水素社会形成に向けた、小型・高効率燃料電池部材技術の開発
E6	水素炎を用いる加熱炉の開発
E7	省電力・高耐久ディスプレイの実現に向けたマイクロLED実装研究
E8	深紫外 280nm（UV-C）LEDの開発・製品化

・ モノづくりを支える先進材料・加工技術開発プロジェクト（プロジェクトM）

番号	研究テーマ
M1	焼かずに作るセラミックスのシンクロトロンによる解析と産業応用
M2	窯業競争力向上のためのセラミックス焼成収縮・変形の解明
M3	シンクロトロン光の清酒製造プロセスへの活用
M4	シンクロトロン次世代ナノ・マイクロ加工技術の開発
M5	デバイス実装用高熱伝導部材およびデバイス材料研削砥石の開発
M6	航空機製造工程の革新によるコスト低減と機体の軽量化・高性能化
M7	自動車軽量化のための熱可塑性炭素繊維強化樹脂の加工技術開発
M8	セルローズナノファイバーを活用した高機能複合材料開発と実用化
M9	革新的金型製造技術の開発とその産業応用

（3）評価手法

最終評価は、利害関係の無い専門家・有識者で構成された外部評価委員会を設置し、資料の査読による委員の審査結果を踏まえて評価を行った。

【実施スケジュール】

日時	会議等名	内容等
平成 31 年 2 月 15 日(金) ～3 月 8 日(金)		評価委員による評価資料査読、評価シート作成
平成 31 年 3 月 8 日(月) ～3 月 13 日(水)		評価結果取りまとめ
平成 31 年 3 月 14 日(木)	研究総合評価委員会（最終）	最終評価の審議

【評価委員】

(五十音順、敬称略)

氏名	所属及び役職	備考
青木 美昭	元 三菱重工業株式会社 名古屋研究所 次長	副委員長
大西 保志	元 愛知県産業技術研究所 所長	プロジェクトM
小寺 秀俊	国立研究開発法人理化学研究所 理事	委員長
杉本 祥郎	株式会社シナジック 代表取締役	プロジェクトR
祖山 薫	一般社団法人中部経済連合会 産業振興部長	プロジェクトM
高橋 理一	株式会社コンポン研究所 顧問	プロジェクトR
松山 豊	公益財団法人あいち産業振興機構 経営・技術担当マネージャー	プロジェクトE
山内 幸彦	国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター 所長代理	プロジェクトE

※ 備考欄に評価担当プロジェクトを記載。なお、正副委員長は全プロジェクトを評価。

2 中間評価結果

(1) 評価の構成

評価結果は、「研究テーマごとの評定区分 (S~C)、コメント (肯定的意見、課題・助言)」からなる。研究テーマごとの評価項目及び評定区分は、以下のとおり。

<評価項目>

- ① 研究開発の実施状況について
- ② 事業化の見通し・実績
- ③ 地域産業への波及

(2) 結果

最終評価結果は別添のとおり。なお、プロジェクトごとの評定区分の集計結果は以下に記載する。

プロジェクト名	評定区分 (研究テーマ数)				
	S	A	B	C	計
次世代ロボット社会形成技術開発プロジェクト	0	9	0	0	9
近未来水素エネルギー社会形成技術開発プロジェクト	0	8	0	0	8
モノづくりを支える先進材料・加工技術開発プロジェクト	1	8	0	0	9
計	1	25	0	0	26